

令和4年度第7回学長選考・監察会議議事要旨

- I 日時 令和4年12月22日（木）16:00～17:34
- II 形式 Web会議（於：第2会議室）
- III 出席者 相澤議長、井口委員、植木委員、川合委員、戸田委員、笹原委員、梶田委員
（陪席）
角井監事、大橋監事、神谷事務局長、鈴木総務・経営企画部長、今野総務課長、
松本総務課副課長、石松総務課専門職

IV 議事要旨

1 審議事項

（1）令和4年度第6回議事要旨（案）の確認について

議長から、配付資料に基づき、令和4年度第6回議事要旨（案）について説明があり、これを確認した。

（2）学長業績評価の実施に係る確認について

総務課長から、配付資料に基づき、学長業績評価の実施に係る確認について説明があった。続けて議長から、本日は学長の自己評価書を基にしたプレゼンテーションと質疑応答を行い、各委員による学長業績評価結果を踏まえて学長業績評価を総括し、次回の本会議において審議・決定する旨の説明があった。

なお、学長業績評価結果における「期待する程度」については、これまでの学長選考過程を通じて醸成された期待する学長像を基準として、各委員において判断してほしい旨の説明があった。

（3）学長業績評価の実施

総務課長から、配付資料に基づき、学長業績評価の実施について説明があった。続けて学長から25分間のプレゼンテーションがあった後、質疑応答を行った。

（委員の発言は「委」、学長の発言は「学」と表記する。）

委：教育は必ずしも一つの目標でまとめられず、色々な意見を丁寧に聞きながら進める必要がある。教育において改革すべきことはどのような点か。

学：二つの点が重要と考えている。一つは対話力（情報リテラシー）であり、人の話を聞いて自分の考えを述べる力である。学部教育からの積み上げが必要であり、その力をしっかり身につけさせる機会を設けることが重要である。もう一つは、現場で実際に手にとり経験を自分のものにするこことである。経験を通じてどのように自分に磨きをかけ、才能を見出すのか、どのような教育をする必要があるのか教職員と議論することが重要と考えている。

委：文化的な教育を限定的にしかできない弱みがあると思う。近隣の東京外国語大学やICUなどと教育面で交流することにより、社会的に広がりのある教育を提供できるのではないか。

学：東京外国語大学とは教育の乗り入れの検討を行っており、ICUとも深い連携関係を

築いている。1年生から博士課程まで一貫してものの見方を身につける教育体系を築くことは重要であり、教職員の理解を深める努力を進めていきたい。

委：新しい人事制度や教員の業績評価制度などの導入に対する、教員や学生など学内構成員からの評価をどのように考えているか。

学：教員の業績評価の第一印象はあまり良くないと考える。評価の比重を変え、評価されにくい業績は文書でアピールするなどにより、徐々に理解されつつある。また、学長と教員の意見交換の場を設けることにより、教員の様々な点を見ていることが伝わることが重要と考えている。ベンチャー企業を始めたいと言う学生も増えており、広報活動にも協力的である。本学の良い点に対する理解を深め、単一の物差しではない考え方を浸透させることが農工大らしさと考える。

委：学生からの教育に対する要望を取り入れることができているのではないかと。大学の教育方針に学生は必ずしも同意していないのではないかと。

学：農工大で学ぶことの意味を大学や教員との繋がりを通じて認識することが大事と考えている。まずは教員と意識を合わせ、学生との真剣勝負に望むべきと考えている。

委：大学で教育することも重要だが、入試制度等を通じて素養を持つ学生を入学させることも重要ではないかと。

学：入試制度を変えることは大変であり、その大変なことにチャレンジできる、農工大に対して高い意識を持つ教職員を増やすところから始める必要がある。

委：全国から優秀な学生を集め育て、全国に卒業生を輩出するビジョンはあるか。

学：農工大の教育を全国に広げることは重要だと考えている。同窓生が製作している物を返礼品にする形で、同窓生のネットワークを全国に繋げる施策を検討している。

委：講義はオンライン、実習は対面で集中的に実施することにより、全国から学生を獲得できるのではないかと。

学：オンラインの活用は重要な教育要素になると考えている。

委：寄附が集まるかは、寄附文化がある国とそうではない国では大きく異なる。想定規模の寄附を集めることは簡単ではないがどうか。

学：日本で寄附が集まる要素は、事業の収益性と健康寿命を縮めるネガティブ要因の削減である。これらとリンクさせることで寄附に繋げる仕組みを構築することにより、日本の大学も欧米のように強くなれるのではないかと。

委：寄附の好事例の一つが早稲田大学であり、同窓生からの寄附が多い。同窓生をうまく活用してはどうか。さらに愛校心を育てられると良い。

学：同窓生が製作する返礼品のお金を大学が負担することにより同窓生のネットワークを広げ、また同窓生の間で農工大への貢献の輪が広がるような、同窓生の満足という観点を取り入れた新しいモデルを作りたい。

委：事業の獲得そのものではなくその成果が重要であり、成果をもう少し明確にする必要がある。また、事業が多いと縦割りになり、キャパシティの問題がある。

学：国際卓越研究大学の目標を自力で達成することが大きなモデルになると考えている。また、社会に対してわかりやすい成果を出し、人の幸せ度を上げることに大学が直接コミットするために資金を活用したいと考えている。

縦割り撤廃の象徴として小金井キャンパスに動物病院を作った。また、副学長（教学

統括担当)を配置したことにより、各部局の業務を横断的に見ることが可能になった。キャパシティーについては、外部の力を積極的に借りることにより、少しずつ職員力を上げていきたい。

(4) その他

総務課長から、学長の業績評価に係る学長業績評価結果(票)については、この後メールにて1月6日(金)を目途に提出願う旨の説明があった。続けて次回の本会議は、1月27日(金)16時開催を予定である旨の説明があった。

配付資料

名簿	国立大学法人東京農工大学学長選考・監察会議委員名簿
資料1	令和4年度第6回学長選考会議議事要旨(案)
資料2-1	令和4年度の学長選考・監察会議の日程について
資料2-2	学長選考・監察会議の責務
資料2-3	国立大学法人東京農工大学学長の業績評価の実施について
資料2-4	国立大学法人東京農工大学学長の業績評価について
資料2-5	国立大学法人東京農工大学学長業績評価結果への記入について(依頼)
資料2-6	国立大学法人東京農工大学学長業績評価(案)
資料3	自己評価書
資料4	プレゼンテーション資料
参考資料1	所信(令和元年10月7日版)
参考資料2	学長ビジョン(令和3年11月17日開催の令和3年度第3回学長選考会議資料版)

配付資料

参考資料3	東京農工大学の機能強化を推進する取組
参考資料4	令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
参考資料5	産学官連携のご案内2022
参考資料6	東京農工大学農学部/工学部
参考資料7	環境報告書2022